

第4学年 特別の教科 道徳 学習指導案

令和3年6月28日(月)5校時

2組 男子19名 女子21名 計40名

指導者 松 永 愛 加

1 主題名 分けへだてなく＜C－(13) 公正、公平、社会正義＞

教材「いじりといじめ」 (小学校道徳4 生きる力 日本文教出版)

2 主題について

(1) 主題の価値とねらい

本主題は、第3学年及び第4学年の内容項目「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること」をねらいとしている。これは、社会正義を実現するために、その社会を構成する人々が真実を見極める社会的な認識能力を高めた上で、思いやりの心を育み、自分の気持ちや雰囲気にとらわれず誰に対しても分け隔てなく接して、偏ったものの見方や考え方を避けるよう心掛けることができるような子どもを育てようとする内容項目である。そして、高学年の「誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める」ことと深く関わっている。

この時期の子どもは、誰に対しても分け隔てをしないで接することの大切さを理解できるようになる。しかし、ともすると自分の仲間を優先することに気を取られ、自分の好みで相手に対して不公平な態度で接してしまうことも少なくない。

そこで、本教材を扱うことで、子どもが学校生活で起こりうる授業中の出来事を考え、実体験をもとに公正、公平に振る舞う必要性について考えを深めることができる考えた。その際に、子どもが相手に対する「いじり」について考え、いじられた側の気持ちを考えた上で、誰に対しても平等に接した方がよいことをつかむことができるようにしたい。さらに、公正、公平の価値理解をした上で、これからの自分はどんな気持ちを大切にしていけばよいか考えることができるようにする。また、これまでの自分を見直し、誰にでも公正、公平に接するよさに着目することで、みんなが気持ちよく過ごすことができることに気付くことができるようにしたい。

このような学習を通して、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接しようとする態度を育てることができる考える。

(2) 内容項目とその傾向

	【低学年C－(11)】	【中学年C－(12)】	【高学年C－(13)】
内容項目	自分の好き嫌いにとらわれ ないで接すること。	誰に対しても分け隔てをせ ず、公正、公平な態度で接す ること。	誰に対しても差別すること や偏見をもつことなく、公 正、公平な態度で接し、正義 の実現に努めること。
指導にあたって	日常の指導において、公 正、公平な態度に根差した具 体的な言動を取り上げて、そ のよさを考えられるようにす る。また、偏見や差別が背景 にある言動については、毅然 として是正することができる ようにする。	不公平な態度が周囲に与え る影響を考えさせるとともに、 そのことが人間関係や集団生 活に支障を来したいじめにつ ながることを理解できるよう にする。	不公平な行為は絶対に行わ ない、許さないという断固た る態度を育てられるようにす る。

3 児童の実態

【調査人数：40名 実施日：5月18日 調査方法：質問紙法】

① ペアやグループ学習で自分の考えが深まったり、高まったりすることがありますか。

よくある 11名	授業によってはある 21名	あまりない 6名	ない 2名
----------	---------------	----------	-------

② 学習で自分から気軽に聞きに行ける友達がいますか。

いる 22名	まあまあいる 14名	あまりいない 3名	いない 1名
--------	------------	-----------	--------

③ 困っているときに教えてくれたり、協力してくれたりする友達がいますか。

いる 27名	まあまあいる 7名	あまりいない 4名	いない 2名
--------	-----------	-----------	--------

④ 道徳の授業は、生活の中で役に立つと思いますか。

すごく役に立つ 16名	まあまあ役に立つ 17名	あまり役に立たない 3名	分らない 4名
-------------	--------------	--------------	---------

⑤ 学習をみんなですると楽しいですか。

いつもそう 21名	たまにそう 15名	あまりそうでない 4名	全くない 0名
-----------	-----------	-------------	---------

⑥ 自分から進んで取り組んでいますか。

いつもそう 13名	たまにそう 18名	あまりそうでない 6名	全くない 3名
-----------	-----------	-------------	---------

⑦ 自分の考えは、みんなの役に立っていると思いますか。

いる 2名	まあまあいる 24名	あまりいない 9名	いない 5名
-------	------------	-----------	--------

⑧ 自分にはよいところがあると思いますか。

思う 9名	まあまあ思う 16名	あまり思わない 12名	思わない 3名
-------	------------	-------------	---------

⑨ 「いじめ」は 悪いことだと思いませんか。

はい 40名	いいえ 0名
--------	--------

⑩ その理由を教えてください。(複数回答可)

・傷つくから。	8名	・大人へ相談しにくいから。	2名
・相手が嫌がっているから。	8名	・家の人や先生が心配するから。	1名
・相手が悲しむから。	3名	・かわいそうだから。	1名
・やってはいけないと思うから。	3名	・相手のストレスになるから。	1名

⑪ 「いじめ」にはどんなものがありますか。(複数回答可)

・悪口（らくがき含む）	30名	・仲間外れ	12名	・物を壊したり、傷を付けたりする	3名
・暴力	17名	・物かくし	7名	・嫌な言葉を言う	3名
・無視	17名	・ばかにする	6名	・呼び捨て	2名

⑫ 「いじり」にはどんなものがありますか。

・人を馬鹿にする。	5名	・挑発的に言う	1名
・からかう	3名	・悪いツッコミ	1名
・少しのこと（間違いも含む）で笑う	4名	・いじりが分からない	21名

【考察】

①～⑥の質問より、学習をみんなですると楽しいと約9割が答えた一方で、道徳の授業は、生活の中で役に立つと答えた子どもが8割であった。このことから、友達と楽しんで学習していても、道徳の授業は生活の中で役に立つことを実感できていない子どもがいると考えられる。

⑦の質問では、約7割の子どもたちが「自分の考えは、役に立っている」と考えている一方で、約3割の子どもたちが「自分の考えは、役に立っていない」と考えており、意見の正誤を気にして自分が意見するということのよさを実感できていないと考えられる。また、この時期の子どもは周りの目を気にし始めるため、羞恥心があるということも考えられる。

⑧の質問では、自分にはよいところがあると思うと答えた子どもが約6割である一方で、約4割はよいところがないと答えており、自己肯定感が低いと考えられる。

⑨～⑪の質問では、「いじめ」は悪いと全員が思っていることが分かる。

⑫の質問では、「いじり」には、人を馬鹿にすること、からかいといったように、「いじめ」と類似した認識を持っている子どもがいる。一方で、「いじり」がどのようなものであるかが分からない子どもがいることが分かる。このことから、普段の生活では人をいじっている感覚を持たずに、友達と接しているということが考えられる。また、普段の様子を見ていると、「いじめ」が悪いと分かっているにもかかわらず、「いじり」をしてしまう様子が見られる。

4 本校の研究テーマとの関連

研究テーマ「自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに認め励まし高め合う子どもの育成」を
目指した授業を行うことにした。特に、テーマ下線部を重視し、本授業での検証を行う。

(1) 視点ア②交流活動の工夫

「いじり」について自分の考えをもって話し合う交流活動の工夫をすることで、他者を見つめ、他者を受け入れ、理解することができるような「他者理解」を深めることができたか。

(2) 視点イ①ユニバーサルデザインの視点

授業の流れや授業における子どもの考えをつかむ板書の工夫をすることで、他者を見つめ自分にできることを考えるような「認め合う力」を高めることができたか。

5 教材について

相手が気にしてなさそうだから「いじり」だと思っていた発言が「いじめ」になっているかもしれないということに気づき、今まで相手の気持ちを考えて発言できていたかどうかを振り返るゆうきの姿が描かれている。この姿は、子どもにも当てはまることであり、自分の他者への関わりについて考えるための教材として扱う。

場面と行為の流れ	人物の状況 (◇) 心情・考え (◆)	児童の資料の受け止めや 心の動き (○)
一人の芸人さんがいじられていたことが学級で話題になり、母親の「いじめじゃないの。」という言葉からゆうきは少しもやもやしていたが、みんなが笑っているから、たいしたことじゃないと思い直す。	◇ いじられた芸人さんの話題になり、話を合わせて笑う。 ◆ 少しもやもやするな。 ◇ お母さんの「いじめじゃないの。」という言葉を読み出す。 ◆ みんなも笑っているし、たいしたことじゃないよな。	○ よくテレビでいじられている人、見るな。 ○ いじめまではいかないから、いじりだと思うな。 ○ 芸人さんなら仕方がない。
まさるくんの間違いがみんなにうけたことに対してのみかさんの発言から教室はしんとなり、さらにみかさんは「今の、笑っていいのかな。」と思い切ったように言う。	◇ 学級のお母さんがまさるくんの間違いを笑い、どきっとする。 ◇ いつもおとなしいみかさんが「今の、笑っていいのかな。」と思い切ったように言う。 ◆ 確かに、ぼくだったら嫌かも。	○ 自分だったら嫌だ。 ○ 笑ってくれたほうが恥ずかしくない。 ○ 間違えて笑われることなんて、よくある話だな。
げんきくんの「まさるくんは気にしてないよ。」という言葉にみんなはうなずく。しかし、みかさんの「本当に嫌じゃなかったのかな。いじめじゃない。」という発言を聞いて、まさるくんはたどうつむいている。	◇ げんきくんの「だって、おもしろかったし、まさるくんは気にしていないよ。みんなにうけたし、気にするほどじゃない。」という言葉にみんなうなずく。 ◆ おもしろかったなら、いいのかな。 ◆ うけたんだから、まさるくんも喜んでいはず。	○ 笑っているなら、気にしていないと思うな。 ○ おもしろいから、しょうがない。 ○ 本当は嫌だけど、無理して笑っているんじゃないかな。
「いじめというよりいじりだよ。」という言葉に対して、ゆうきは「まさるくんは笑っていたけれど…。本当はどんな気持ちだったのかな。」とつぶやく。	◇ 昨日のお母さんの言葉を思い出す。 ◇ 「まさるくんは笑っていたけれど…。本当はどんな気持ちだったのかな。」とつぶやく。 ◆ まさるくんが笑っていたから、大丈夫だと思っていたな。 ◆ まさるくんの気持ちを考えていなかったな。	○ 笑っているからと言って、気にしていないわけではない。 ○ いじりだと思っていたこともいじめになることもあるのか。 ○ 自分もよく笑っていたな。

6 指導に当たって

(1) 視点ア②交流活動の工夫において

ア 「いじり」についての話し合いから一人一人の捉え方の違いに気付くことができるようにすることで、他者理解に繋がるようにする。

イ 友達のノートを見て、自分と同じ意見には「☆」、違う意見には「◎」の印を付ける時間を設けることで、様々な意見にふれ他者のよさに気づけるようにする。

ウ 自分たちに同じような経験がないかを問うことで、自分たちの生活を振り返りながら「いじり」について話し合えるようにする。

(2) 視点イ①ユニバーサルデザインの視点において

ア 「いじり」に関する動画を視聴することで、「いじり」がどのようなものかを考えることができるようにする。

イ 四象限の表を使って「いじり」への賛成または反対／しているまたはしていないかという自分の立ち位置を明確にすることで、自分の生活を振り返ることができるようにする。

ウ 自分のことを考えているか、相手のことを考えているかについて問いカードで示すことで自分のことだけ考えていたら傷ついている人がいるかもしれないということに気付くことができるようにする。

エ 子どもの発言に表情のマークを示すことで、登場人物の気持ちをつかむことができるようにする。

7 本時

(1)ねらい

いじりといじめについて考え、いじりはいじめにつながることに気付き、誰に対しても分け隔てせず相手を大切にしようとする態度を養う。

(2)実際

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	時間	教師の働きかけ ①交流活動 ②UD ※評価
気付く	1 「いじり」に関する動画を視聴して、自分たちの生活における「いじり」について考える。 2 自分たちの「いじり」について話し合う。 <賛成でいじっている> - みんなが笑顔になるからいい。 - 面白い人なら大丈夫。 <反対でいじっていない> - 笑っていても傷ついていないとは限らない。 - 相手が嫌だったらいじめ。	5	② 「いじり」に関する動画を視聴することで、「いじり」について考えることができるようにする。 ② 四象限表を使って「いじり」への賛成または反対／しているまたはしていないかという自分の位置を明確にすることで、自分を見つめ直すことができるようにする。
考える	3 今日の学習内容を確認する。 みんなが気持ちよく過ごすためには、どんな気持ちが大切だろう。 4 教材のあらすじを確かめる。	5	① 「いじり」についての話し合いから一人ひとりの捉え方の違いに気付くことができるようにすることで、他者理解に繋がるようにする。
深める	5 資料「いじりといじめ」について話し合う。 (1)「今の笑っているのかな。」と言ったみかは、どんなことを思ったのか考える。 (2) げんきの言葉について考える。 <まさるくんの本当の気持ち> - 笑っているから、うれしい。 - うつむいているということは、傷ついているかもしれない。 (3) ゆうきは、みかの言葉でどのようなことに気づいたのかを考える。 - いじりも相手を傷つけていればいじめになる。 - 笑っていても、本当は嫌かもしれない。	10	② げんきとみかの言葉を考えた後、まさるの本当の気持ちについて考えることで、本当の気持ちはどうであるかが分からないということに気付くことができるようにする。 ① 友達のノートを見て、自分と同じ・違う意見に印を付けることで、様々な意見にふれ他者のよさに気付くことができるようにする。 ② 自分のことを考えているか、相手のことを考えているか、カードで示すことで自分のことだけ考えていたら傷ついている人がいるかもしれないということに気付くことができるようにする。
広げる 高める	6 自分たちの生活に立ち返った上で「いじり」について考え、今後の自分たちの生活について話し合う。 誰に対しても、相手の気持ちを考えて接しようという気持ちが大切。 7 今までの自分を見直し、これから大切にしていきたい気持ちをノートに記入する。 8 振り返りをする。 9 教師の説話を聞く。	15 10	① 失敗を笑われて嫌だと感じた経験を話し合うことで、自分たちの生活に似ていることに気付くことができるようにする。 ① 再度「いじり」への賛成または反対／しているまたはしていないかという自分の立ち位置を考え話し合うことで、「いじり」に対する考えの変容が確認できるようにする。 ※ 誰に対しても分け隔てせず相手を大切にしようとする気持ちをもったか。